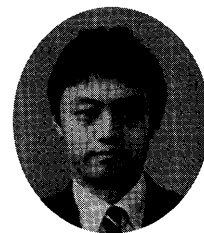


巻頭言

原稿執筆案内の改訂



松尾 豊
(東京大学)

人工知能学会誌・論文誌の原稿執筆案内が改訂された。今回の改訂の目玉は、二重投稿に関する規定を明確にしたことである。特に、国際会議に投稿された論文を、人工知能学会の論文誌に投稿しても構わないということが明記された。今後は、ぜひ、IJCAI や AAI をはじめさまざまな国際会議に採択された論文を、ジャーナル論文として人工知能学会に投稿いただければ幸いである。

なぜそんなことをわざわざ書くのかと疑問に思う方もいるかもしれないが、実はこの問題はかなり根が深い。人によっては、国際会議とジャーナル論文は、「格」が違うので、同じものを投稿してもよいのが当たり前だという意見もある。全く同じものを出すのは著作権の観点から良くないので、少しは変えないといけないという意見もある。国際会議や研究会といったカテゴリーの違いにかかわらず、そもそも同じ内容の著作を二つの業績としてカウントすること自体、許されないという考えの方もいる。

そうした議論を少しずつ解きほぐし、編集委員会で次のように整理した。

- 著作権は別問題である。著作権に関しては、投稿先の国際会議に譲渡している場合もあり、これは著者が責任をもって問題がないようにしてもらわないといけない。
- ジャーナル論文と国際会議論文に同じ内容のものを投稿してもよいかどうかは、ジャーナルや国際会議の役割は何かという「べき論」があると同時に、ジャーナル論文や国際会議の論文がどのように評価されているかというプラグマティックな議論がある。現状で、他分野に比べて情報系の評価が低く、また国際会議の論文が他分野に比べて重要であるにもかかわらず、評価されない状況では、プラグマティックな観点からは国際会議の論文もほとんどジャーナル論文として投稿してもらうべきである。
- その際に、当然、人工知能学会としての査読基準をしっかり守り、内容が良いものは採録すればよい。

なお、人工知能学会では英語、日本語をどちらも同じと扱うのではなく、できれば日本語で、英語も可という立場を取っている。以上をまとめると、国際会議に採択された論文を、日本語に訳し、著作権をクリアしたうえで、ぜひ人工知能学会に原著論文として投稿していただければ幸いである。